

下諏訪町の主な中世遺跡

No.	遺跡名	所在地	主な発見
1	ふじ塚遺跡	杜	礫石経塚、和鏡、かわらけ、銭貨
2	春宮境内遺跡	大門	多量のかわらけ
3	秋宮境内遺跡	上久保	柱穴とかわらけ
4	綿の湯	横町木下	和鏡
5	神の殿遺跡	上馬場	下社大祝の居館跡、建物跡
6	武居遺跡	武居	方形竪穴群とやきもの、和鏡
7	旧御射山遺跡	霧ヶ峰	下社の祭祀場、階段状の ^{さじき} ^{なまがま} の ^{さじき} の ^{なまがま} 、 ^{さじき} の ^{なまがま} 、多量のかわらけ
8	殿村・東照寺址遺跡	高木	寺院跡と集石墓群、貝塚、多量のやきもの
9	四王前田遺跡	四王	方形竪穴と井戸跡、豊富な遺物、動物遺体
10	彦祖街道遺跡	高木	建物跡とみられる石列
11	天白遺跡	東町中	かわらけ



『しもすわ鎌倉物語』関連事業

6万点以上の
礫石経が積まれていたふじ塚遺跡（下諏訪町）
礫石経塚と礫石経

2023年11月12日(日)

長野県埋蔵文化財センター 講演会

掘るしんinしもすわ

遺跡から見る中世の祈り

会場 下諏訪総合文化センター 大ホール（諏訪郡下諏訪町西鷹野町 4611-40）
（やまびこホール:収容人数700人） 入場無料・申込不要受付・開場 12時30分
開会 13時00分

【基調報告】 13時10分～13時50分

「発掘された下諏訪の中世遺跡」

みやさか きよし
宮坂 清氏（諏訪湖博物館・赤彦記念館 館長）

「下諏訪町ふじ塚遺跡の調査成果」

かさい かつぞう
河西 克造（長野県埋蔵文化財センター 調査指導員）

【講演】 14時00分～15時00分

れきせききょう
「礫石経の語り」ときえだ つとむ
時枝 務氏（立正大学 教授）

ディスカッション 15時10分～15時40分



「会場アクセス」

お車：岡谷ICより約12分
諏訪ICより約22分
徒歩：下諏訪駅より約8分ふじ塚遺跡の出土品は諏訪湖博物館・赤彦記念館の企画展にて
9月9日(土)～11月19日(日)
展示しております。

協力：諏訪湖博物館・赤彦記念館 後援：長野県教育委員会

主催・問合せ先：長野県埋蔵文化財センター 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

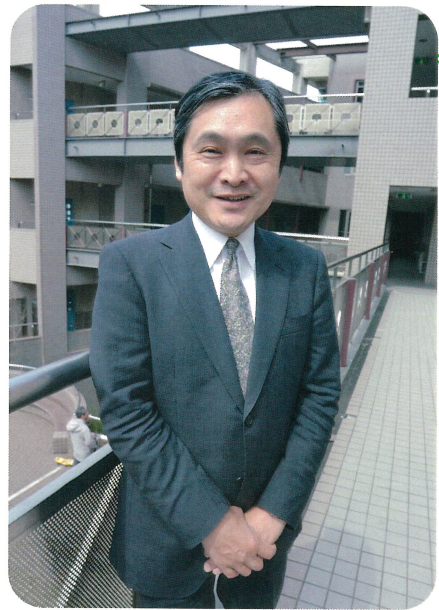
TEL 026-293-5926

https://maibun@naganobunka.or.jp

掘るしん



講師紹介



時枝 務 (ときえだ つとむ) 立正大学教授

1958年生まれ。群馬県高崎市出身。
立正大学大学院文学研究課史学専攻修士課程終了。国立博物館学芸部考古課主任研究官、文化庁文化財部調査官を経て2006年より立正大学助教授。2012年より教授、現職に至る。博士(文学)。専門は宗教考古学。全国各地で宗教遺跡・遺物を考古学的に調査・研究する宗教考古学の第一人者。講演会や遺跡の調査指導を行う。

主な著書に『修験道の考古学的研究』(雄山閣)、『山岳考古学—山岳遺跡研究の動向と課題』(ニューサイエンス社)、『霊場の考古学』(高志書院)、『山岳宗教遺跡の研究』(岩田書院)、『山岳霊場の考古学的研究』(雄山閣)などがある。



宮坂 清 (みやさか きよし) 諏訪湖博物館・赤彦記念館館長

1965年生まれ。長野県諏訪市出身。
1988年東海大学文学部史学科考古学専攻卒業。同年下諏訪町役場入庁。埋蔵文化財を担当し中世の遺跡などの発掘調査に携わる。1993年から町内の黒曜石原産地遺跡の調査を担当し、先史時代の黒曜石利用について専門的に研究している。かたわらで、自身が発掘調査した中世の遺跡に愛着と関心を持ち、細々と中世考古学の勉強を続けている。



河西 克造 (かさい かつそう) 長野県埋蔵文化財センター調査指導員

1961年生まれ。長野県諏訪市出身。
立正大学大学院文学研究科史学専攻修士課程中退。1986年から長野県埋蔵文化財センターに奉職。調査研究員、主任調査研究員、調査課長補佐を経て現職に至る。県内で公共事業に伴う遺跡の発掘調査に従事し、県内での中世・近世城郭調査の指導や、国史跡に指定されている近世城郭の史跡整備委員を務める。専門は中世・近世城郭の考古学的研究。

主な著書に『探訪信州の古城』(共著、郷土出版社)、『甲信越の名城を歩く—長野編—』(共著、吉川弘文館)などがある。

下諏訪町ふじ塚遺跡の概要

位置:長野県諏訪郡下諏訪町社

調査期間:令和2(2020)年7月1日~12月11日

令和3(2021)年4月6日~8月27日

調査原因:一般国道20号(下諏訪岡谷バイパス)改築工事

調査面積:令和2年度3,000㎡

令和3年度1,770㎡

立地:砥川右岸の河岸段丘上に立地

調査成果:縄文時代~近世の遺構が検出された。遺跡内には方形の墳丘(マウンド)があり、墳丘の下層から約6万点の礫石経(一字一石経)で構成された礫石経塚が発見された。礫石経塚からは約70点の銭貨(宋銭・明銭)が、礫石経塚の上面からは和鏡とかわらけが出土した。かわらけは合わせ口の状態で出土していて、供物が納められていたと思われる。礫石経には法華経や浄土経などの経文や、梵字が書かれている。礫石経塚は、かわらけや銭貨などの共供遺物から、16世紀につくられたと考えられる。礫石経塚の構築方法や礫石経の埋納方法がわかる貴重な事例である。



礫石経塚の全景(長軸約7m×短軸約4.5m)



礫石経塚に埋納された和鏡
(銅製 直径約8cm)



礫石経塚に埋納された礫石経



礫石経塚に埋納されたかわらけ
(直径約13cm)